

1. 構想の概要

【構想の名称】

先端科学技術を担うグローバルリーダー育成のための世界水準の大学院大学の構築

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

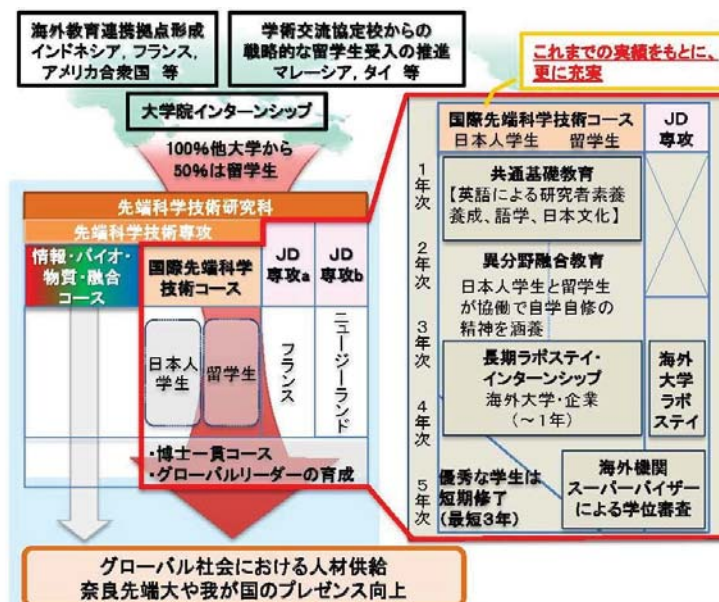
本学は、先端科学技術分野で世界を先導する研究の推進と、世界の将来を担うグローバルリーダーの育成において、世界に確かな存在感を示し、世界から高く評価される大学を目指す。「NAIST Global³」(※)を旗印に、グローバルリーダー育成のための国際コースの拡充と整備、世界トップ水準の研究力にもとづく大学院教育の実践とモデルシステム開発、異分野融合教育の展開と異文化混在のグローバル キャンパスの拡充を推進していく。

(※) NAIST Global³ (ナイストグローバルキューブド) : cultivating Global leaders through Global standard graduate education on a Global campus



【構想の概要】

先端科学技術の基盤となる情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の3分野において、世界トップ水準の研究力に基づく大学院教育の実践とモデルシステム開発をすすめる。新たな1研究科体制において、従来、3研究科で行っていた区分制の博士前期・後期課程教育を、情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学・融合領域コースに発展的に再編する。また、現行の博士5年一貫コースと国際コースを統合して、異文化・異文化混在の環境で教育を行う、5年制の国際先端科学技術コースを設置する。さらに、同コースの一部として、海外大学とのジョイントディグリー専攻を設置する。世界レベルの大学院教育を提供し続けるために、教職員の海外研修を継続・充実させ、教育研究体制のグローバル化を推進する。また、留学生・外国人研究者支援センターを設置し、多様な文化を背景に持つ者が、お互いに尊重して生き生きと暮らせるキャンパスを実現させる。



【10年間の計画概要】

●海外サテライト研究室・オフィスの設置

東南アジア(インドネシア)、北米(アメリカ・カリフォルニア)、そして欧州(フランス)に、海外教育および研究拠点を置き、留学生などの受け入れや就職支援、教育研究連携の支援業務を行うほか、周辺諸国でも活動する。

●日本語教育の実施

全学教育科目として日本語語学科目や「日本文化入門」を、カリキュラムに導入する。また、日本語の会話パートナーなどチューター制度やホストファミリー制度、そして文化活動行事への参加を通し、留学生の日本語習得や日本社会に対する理解を促進する。日系企業へ就職を希望する留学生のための就職ガイダンスを開催する。

●1研究科1専攻体制の設置

研究科の枠を超えた教育指導を可能にし、社会、時代の要請にあった融合領域や新しい研究分野への挑戦を容易にするため、現在の3研究科を1研究科に改組する。また、国際先端科学技術コースを設置する。

●ジョイントディグリープログラムの実施

これまでのダブルディグリープログラムを継続・強化するとともに、5年一貫の国際先端科学技術コース内に、海外大学とのジョイントディグリー専攻を設置する。また、海外留学・海外インターンシップを義務づける。

●学内の英語化

1研究科体制においては、全てのコースで英語のみで学位取得を可能とする。また、学内規則や文書のみならず、食堂メニューなどの英語化も進める。

●UEAの設置

UEA(エデュケーション・アドミニストレーター)を設置し、組織的なカリキュラム編成および国内外の教育機関・企業との連携の開拓・実質化ならびに一貫したキャリア支援などを行う。

●留学生・外国人研究者支援センターの設置

異文化混在グローバルキャンパスを作るため、地域との連携により教育研究の徹底したグローバル化と生活支援を推進できる体制を整える。

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

学部を置かない大学院大学の強みを生かし、研究科の枠を超えた教育プログラムを展開し、世界と未来の問題解決に貢献する「代わるものがない」大学として、世界の科学技術の進展やイノベーション創出を担うグローバル人材育成のための大学院教育モデルを示していくとともに、融合領域や新しい研究分野へ挑戦し続けることで、時代と社会の要請にダイナミックに応えていく。そのために、教育研究の計画と実績について自己評価し、問題のあるところを常に強化していくというPDCAサイクルにもとづく大学運営を行うための組織体制を構築した。この体制のもと、学長直下に設置した戦略企画本部が大学の将来像を明確に示し、学長のリーダーシップを強力に支えることにより、調査分析・評価等による活動内容と効果の恒常的な見直しを行いつつ、10年、20年後を見据えた教育研究機能の強化・充実を進めていく。

準備・検討	組織・体制整備								実践・改善	
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度		34年度
海外サテライト研究室の設置										
海外オフィス設置先の検討・開設準備		海外オフィスの設置			海外オフィスの活動状況評価					
日本語教育のトライアル			日本語教育の実施							
ダブルディグリープログラムの実施										
ジョイントディグリープログラムの検討開始		ジョイントディグリー専攻設置準備、設置審査			ジョイントディグリープログラムの学生受け入れ					
年俸制導入の検討、制度設計		若手教員への年俸制導入								
教員評価制度の検討										
1研究科1専攻に係る協議				1研究科1専攻体制のための大学設置審査		1研究科1専攻での学生受け入れ				
英語化すべき学内規則・文書等の検討		学則以下大学諸規定の英語化		学内通知・教授会資料等の英語化						
UEAの配置										
			UEAのキャリアパス検討		UEAのキャリアパス確定					
			戦略企画室の設置							
			教育推進機構の設置							
			留学生・外国人研究者支援センターの設置							
				国際コースの整備・全学共通教育の実施						
				自己点検評価	改善・計画の修正		自己点検評価	改善・計画の修正	自己点検及び計画の修正	事後評価のための自己点検
					中間評価				事業展開の検討	新たな事業展開の準備

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

●スーパーグローバル大学創成支援事業キックオフシンポジウム

先端科学を担う大学院教育における今後の展望について、平成26年3月に東南アジアの協定校学長・国際担当副学長等及びカリフォルニア大学デービス校の初代国際担当プロボストを本学に招へいして本事業シンポジウムを開催した。国際的に活発に発展する大学としての共通課題に集点をあてて講演を行い、今後も継続的に関係を深める重要な機会となった。また、留学生等の受入や教育研究連携の支援を行う海外拠点の設置可能性についても、立地条件等も含めた意見交換が行われた。

●英語版ガイドブックなどの英語化推進

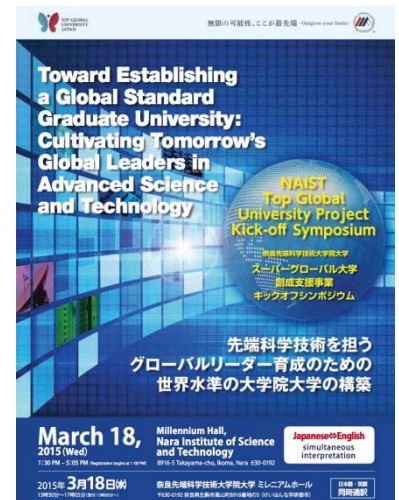
各学術交流協定校での入試セミナーや日本留学フェア等において、本学の教育研究について英語による情報発信を強化し、さらなる留学生の獲得につなげた。また、英語版ガイドブックを各国際機関等に配布することで本学の海外でのプレゼンスをさらに高めた。

●国際教育連携プログラム実施のための調査

大学設置基準等の一部を改正する文部科学省令(平成26年第34号)等の施行に鑑み、ジョイントディグリーに関して改めて検討することにした。ダブルディグリーについては、ユニテック工科大学の担当教員が1月に来訪した際に最終協議を行い、平成27年5月に協定書に署名する運びとなった。これらの取組により、学生に対して国際教育連携プログラム及び学位取得への道筋を明確にした。

●海外SD研修の実施

海外SD研修(ハワイ東海大学)と職員英会話研修を通じて、教育研究のグローバル化を支援する部署等の組織的対応力を強化した。



ガバナンス改革関連

●戦略企画本部の設置準備

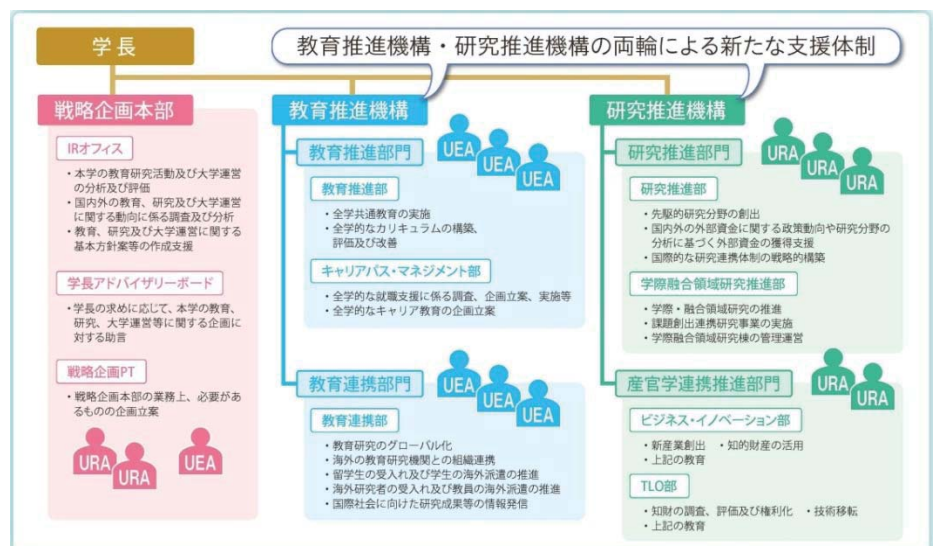
大学の将来構想や教育研究戦略の策定を担う戦略企画本部を学長直下に設置し、学長を本部長として新しい教育研究戦略の企画一元化を行う準備を整えた。戦略企画本部は、大学運営・改革の司令塔であり、学長が、IR (Institutional Research) オフィスでの調査・分析結果、アドバイザーボードによる助言、部員からの具申などにより、大学運営に関して時代・社会の要請に応じた的確な判断・指示を迅速に行える体制とする準備を整えた。

●教育推進機構と研究推進機構の設置準備

世界水準の大学院教育を行うために、教育プログラムの企画、推進、評価を担う教育支援組織である教育推進機構を新設し、研究大学強化促進事業において設けられた研究支援組織である研究推進機構と両輪となって、学長のリーダーシップの下、戦略的に本学の教育研究を推進していく準備を整えた。

●UEA、URAの適正配置

教育系のIRを担当するUEA (University Education Administrator) をIRオフィスに配置し、学生の資質能力の調査と教育効果の検証、教育プログラムの評価、世界の大学院教育の改革動向の調査分析を行い、組織的カリキュラム編成、評価と検証、改善、実施のPDCAサイクルを担う。また、カリキュラム、キャリア支援、国際展開を担当するUEAを教育推進機構に配置し、個々の学生に応じたきめ細かな指導、アドバイス等を行うとともに、教員と協力して新たな国際連携の開拓を支援する。



教育改革関連

●海外FD研修

10月にカリフォルニア大学デービス校における海外FD研修に新任教授等を参加させ、多様な学生のニーズに応じて積極的な学習意欲を引き出すアクティブ・ラーニング等の全学的導入を進めることにより、学生が世界水準の大学院教育を享受できる学習環境を整えた。

●留学生の日本語能力向上

留学生が将来、日本企業に就職する際に必要となる日本語コミュニケーション能力の獲得につながるよう、初心者クラスを「MISJ」に、初級クラスを「奈良日本語塾」に委嘱したところ、それぞれの実績を考慮した上で、平成27年度より正規の授業科目として位置付け、組織的な日本語教育に向けた準備を整えた。また、ボランティア団体「ネットワークいこま」による日本語教室も引き続き開講することで、留学生の更なる日本語力向上につなげた。

●日本人学生の英語能力向上

博士前期課程では英語論文を読解し、英語で行われる講義・セミナーを理解できる力を身に付けさせ、博士後期課程では英語で研究発表や質疑応答、交渉やトラブルに対処できる能力を修得させることを全学の目標とし、1月にTOEIC試験を実施し、目安とすることで学生の英語力向上への指導等に役立てた。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

●学内諸規定等の英語化

外国人教員の参加を促すため、会議資料や諸通知に英語化を促進するという点で平成26年度より会議資料の議題に関して全研究科で英語化を実現した。また、学内諸規定の英語化については鋭意、準備を進めている。



●留学生や外国人研究者の生活環境整備の促進

学内食堂でのメニューの英語化に加え、売店でのハラルフード販売コーナーを設けるなどして、宗教的、文化的に多様な背景を持つ留学生や外国人研究者に配慮した取組を行った。また、家族連れで来日する留学生が増えたため、子供を幼稚園・保育園に入園させる際の手続きを支援したり、市役所からの検診や予防接種の案内なども確実に伝わるように支援している。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

●日本企業に就職を希望する留学生の支援

博士後期課程を修了した留学生のうち、日本企業に就職した留学生の割合が3割に達した。



●母国の大学教員等として就職を希望する留学生の支援

博士後期課程を修了した留学生のうち、母国の大学教員等として就職した留学生の割合が2割に達した。

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

● Science 誌特集「スーパーグローバル大学支援採択機関特集」記事

本学の進める戦略的大学運営強化のための制度の設計および整備計画等を広く世界に発信して本学の知名度向上を図り、また、グローバルキャンパス実現のための企画を効果的に実施していくために、Science 誌に記事広告とパナー広告を掲載した。(記事広告掲載3月27日号・パナー広告3月の1ヶ月間)



3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 海外教育連携拠点 インドネシア・オフィス

本学初となる海外教育連携拠点を、ポゴール(インドネシア)に開設した。今後、優秀な留学生やインターン生の確保、海外協定校や現地企業などへの情報発信、本学修士との連携の深化など、アジアの教育ハブとしてさらなる国際化を展開していく。

○ 第2回スーパーグローバル大学創成支援事業シンポジウム

アメリカ国立科学財団(NSF)、欧州委員会、シンガポール科学技術研究庁(A*STAR)より有識者を招き、理工系グローバルリーダー育成のための大学院教育のあり方について複眼的に検証し、将来への展望を切り開いた。

○ 国内大学との教育連携

国際基督教大学との連携・協力の推進に関する基本協定を締結し、理工系大学院教育におけるグローバル人材育成を促進した。

○ 職員研修

海外SD研修(ハワイ東海大学)と学習段階別英会話研修を通じて、事務職員の英語力および国際性を高め、国際的な素養と総合的な企画力を向上させた。

ガバナンス改革関連

○ 組織改革

教育推進機構の設置により、全学的な教育改善を進め、教育面からガバナンス改革を開始した。また、戦略企画本部の設置により、将来構想や教育研究戦略などの策定に関わる調査分析機能を強化した。

○ UEAの配置

教育連携部にUEA(国際展開担当)を配置し、海外連携プログラムの実施・支援、海外FD、SD研修に関わる機能を強化した。また、個々の学生に応じた履修指導や就学進捗管理に関わるUEA(キャリア支援担当)や、カリキュラムの構築・評価・改善や全学共通教育の実施に係わるUEA(カリキュラム担当)の配置を検討し、キャリアパス・マネジメント部門および教育支援部門の機能を強化した。

○ 留学生や外国人教員・研究者の支援体制

外国人教員・留学生の大幅な増加に対応可能なワンストップ・サービスを可能にするため、支援スタッフの配置を進めたほか、就業規則など学内規則の英語化を推進し、外国人教員、研究者、留学生のさらなる利便性の向上を図った。

教育改革関連

○ 留学生向け日本語科目

日本語科目を留学生向けに全学教育科目として実施することにより、将来日本国内および日系企業で就職する際に必要となる日本語コミュニケーション能力の獲得につなげた。また、補完的にボランティア団体による日本語学教室を通して、留学生の継続的な日本語力の向上を支援した。

○ 国際共同学位プログラム

すでに実施しているプログラム(フィンランド・オウル大学、フランス・ポールサバティエ大学)のほか、国立交通大学(台湾)、ユニテック工科大学(ニュージーランド)、およびマラヤ大学(マレーシア)とのダブルディグリープログラムを新たに開始し、留学生のさらなる獲得と、日本人学生が世界水準の大学院教育を受ける機会を広げた。

○ 海外FD研修

カリフォルニア大学デービス校において海外FD研修を実施し、世界における大学院教育の動向や、国際的に通用する講義方法に係わる教員の知見と能力を向上させた。



〈インドネシア・オフィス開所式〉



〈シンポジウム・プログラム〉



〈シンポジウム講演者他〉



〈海外FD研修〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 学生および職員対象のTOEIC試験実施

海外連携プログラムや国際共同研究等の支援に必要な英語力が要求される部署の担当職員が設定基準を満たすことを目標とし、教育研究のグローバル化を支援できる職員数の増加を目指した。また、博士前期課程では英語論文の読解力と英語による講義などの理解力を向上させ、博士後期課程では英語による研究発表(質疑応答を含む)プレゼンテーション能力や、国際的な交渉に参加できる能力を習得させることを目指した。TOEICを目標達成の指標とし教育指導に活用するため、学生には年2回のTOEIC受験を義務付けており、博士前期課程修了時に650点、博士後期課程修了時に750点を目標にしている。

○ シラバスの英語化

教育体制の徹底したグローバル化を推進する取組の一環として、全開講科目のシラバスを英語化した。このことにより、国際先端科学技術コースの設置と、研究科の枠を超えた教育指導を可能にする1研究科1専攻体制への移行を容易にする。



〈海外協定校での入試説明会〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 英語による広報物

大学紹介および各研究科紹介ガイドブックの英語版を作成し、海外協定校での入試説明会や日本留学フェア、教育研究に関する情報発信を強化した。また、本学のスーパーグローバル大学創成支援事業の取組を紹介するパンフレットを教育連携部門が作成し、大学・研究科紹介と共に、海外協定校や各国大使館等に幅広く配布することにより、本学の国際的なプレゼンス向上を図った。



〈英語版各研究科紹介ガイドブック〉

○ 生活および就学支援

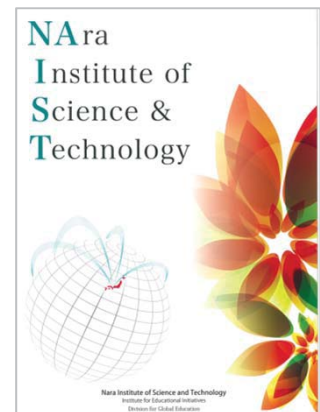
留学生および外国人教員・研究者への支援体制の整備を進めた。外国人教員、留学生および家族を含む渡日前後の手続き、生活サポートの提供を検討していく。

○ 留学生キャリア支援

日本および海外の日系企業就職を志望する留学生のキャリアパス支援を強化するため、キャリア担当UEAを配置した。今後、留学生向け就職ガイダンスを企画し、学内開催する。また、海外教育連携拠点(インドネシア)を中心に同窓会組織などを通じた修了生と在学中留学生のネットワーク作りを後押しし、母国でのキャリア情報交換を支援する。

○ 留学生向け「日本文化入門(英語)」「日本語語学科目」(再掲)の全学開講

留学生向け全学教育科目に、「日本語語学科目」を組込むことで、日本での生活と学修や日本文化・社会に対する理解を深まり、修了後のキャリアパスにつなげた。また、「日本語文化入門(英語)」を全学科目として拡充し、地域の特徴を生かし、奈良等への見学旅行および春日大社や薬師寺等での講話や写経・華道体験、和菓子作りや忍者体験といった文化活動に参加させ、知日派人材の育成する。



〈教育連携部門 取組紹介パンフレット〉

■ グローバルキャンパス実現に向けた取組

○ 異文化交流キャンパスイベントの開催

様々な文的背景を持つ本学留学生と日本人学生・教職員が飲み物を片手に、出身地の違う複数のプレゼンターによる発表を聞き、歓談を楽しむ「NAIST Tea Time」を定期的に開催し、異文化理解・相互理解を深める。

○ 留学生のニーズに応じた食品の提供

学内コンビニエンス・ストアの開店により、提供するハラル・フードの種類を増やした。



〈NAIST Tea Time〉

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【奈良先端科学技術大学院大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 海外教育連携拠点 インドネシアオフィス

インドネシア同窓会と協働し、4月に本学初となる海外教育連携拠点であるインドネシアオフィスをボゴールに開設した。8月には、キックオフシンポジウムを同地にて開催し、諸大学や政府機関、また同国に拠点を置く日系企業に本学のプレゼンスを示した。

○ ガジャマダ大学とのコラボレーション・オフィス

ガジャマダ大学(インドネシア)のバイオテクノロジー研究センター内に、インドネシアにおける本学との共同研究の推進などを目的として、コラボレーション・オフィスを6月に開設した。同国の本学修了生(同窓生)との教育研究連携を推進し、アジアにおける本学の役割を強化した。

○ 海外教育連携拠点 タイオフィス

タイのカセサート大学工学部キャンパス内に、海外教育連携拠点を3月に開設した。今後は、インドネシアオフィスとともにアジアの拠点として、留学生の募集と選考、協定校との連携、また修了生(同窓生)とのネットワークを深化させるなど、教育研究のグローバル化を推進する。

ガバナンス改革関連

○ 戦略企画本部

戦略企画本部会議において、国際交流の進捗状況の確認と海外の教育研究機関などとの連携の方向性について検討した。

○ 1研究科1専攻体制への移行

学生のニーズを反映し、領域横断的な履修を可能にする1研究科1専攻体制への移行に向けて準備した。教育推進部門にカリキュラム担当UEAを配置し、学際融合教育に向けたカリキュラム設計などの準備を着実に進めた。

○ 留学生・外国人研究者支援センター

留学生・外国人研究者支援センター(Center for International Students and Scholars (CISS))を4月に設置し、地域の行政機関との対応を含めた留学生へのサポートや、外国人研究者の受入れに伴う市役所や銀行の手続きなど、留学生や外国人研究者に対するワンストップサービスを実現した。

教育改革関連

○ 海外FD研修の実施

参加者のニーズを踏まえて海外FD研修のカリキュラムを見直し、より実践的な教授法が習得できるように改善した。カリフォルニア大学デービス校における研修に参加した教員の指導能力と技術を世界水準へと向上させ、学内報告会や各研究科でのFD研修会などにおいて情報の共有を図った。

○ 職員を対象にした研修の実施

英会話研修により事務職員の英語力を向上させたほか、海外SD研修をジョブシャドウイングを中心とした上級レベル(オーストラリア・マッコーリー大学)とインタビューを中心とした中級レベル(カリフォルニア大学デービス校およびハワイ東海インターナショナルカレッジ)に拡充し、参加職員の国際性を涵養させた。

○ 国際共同学位プログラム

ダブルディグリープログラムにおいて、ポール・サバチエ大学(フランス)へ本学の学生2名を派遣したほか、留学生をユニテック工科大学(ニュージーランド)から2名とオウル大学(フィンランド)から1名を受け入れることで、海外教育連携プログラムの実質化を図った。さらに、国立交通大学(台湾)とのダブルディグリープログラムへの候補者を増やすため、新たに同大学院との協定書を締結した。



〈インドネシアオフィス・キックオフシンポジウム〉



〈コラボレーション・オフィスの開設〉



〈タイオフィス開所式〉



〈海外FD研修〉



〈海外SD研修〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 学生および職員の語学力の向上

英語学習の進捗状況を確認するため、全研究科で学生対象にTOEICを実施した。また、職員対象のTOEICでは、750点以上を取得した職員の割合が平成28年度の目標値を大きく上回るなど、教育研究のグローバル化の支援に必要な語学力が着実に向上した。

○ 規則やシラバスなどの英語化

留学生および外国人教員や研究者などの利便性を高めるため、英語化すべき学内規則および文書の英訳を完了した。また、全開講科目のシラバスの英語化に取り組むことにより、1研究科1専攻体制における教育カリキュラムへの移行につなげた。



〈日本留学フェアへの参加〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 修了生(同窓生)ネットワークの活用

本学修了生(同窓生)が核となり、ボゴール農科大学(インドネシア)で行われた「就職・留学フェア」において、本学のブースを設置するなど、積極的な広報活動を展開した。また、インドネシアオフィス(ボゴール)において、現地同窓会に業務委託した常駐スタッフ(本学修了生)を配置し、英語のみならずインドネシア語での情報発信を可能にした。

○ 海外への情報発信

全学ホームページのリニューアルに伴い、デザインを日英で統一するとともに、全てのページの見直しと更新を行った。加えて、ホームページをスマートフォン対応にしたことで、留学希望者や留学生が必要とする情報を容易に得られるようになった。また、スーパーグローバル大学創成支援事業における本学のホームページの内容を更新し、デザインを一新することにより、これまでの取組を紹介するとともに、利便性を高めた。また、海外協定校訪問および入試説明会、日本留学フェア、さらに本学海外オフィスなどで幅広く英語版広報物を配布し、教育研究に関する情報発信を強化した。

○ 海外の教育研究機関との連携

世界トップ水準の研究力に基づく大学院教育に向けて、海外の研究大学(シンガポール・南洋理工大学、インド工科大学ボンベイ校など)と新たに学術交流協定を締結した。また、学術交流協定校との国際学生ワークショップや合同シンポジウムの開催、およびラボステイを実施するなどして、本学学生の派遣や協定校との学生交流の推進を図った。

○ 日本語・日本文化入門の実施

日本語コミュニケーション能力の向上と、日本の伝統文化や慣習への理解を深化させるため、日本語・日本文化に関する授業科目を開講した。また、自学自習用に導入した日本語eラーニングシステムを授業にも活用し、留学生の日本語能力の向上に役立てた。

○ 留学生のキャリア支援

留学生キャリア支援担当UEAを配置したことにより、英語による支援体制が強化された。また、留学生対象のキャリア支援の学内向けホームページを開設したことで、留学生の相談件数が増加した。さらに、留学生が希望する日系企業などへの橋渡しを行うことで、就職率の向上につなげた。



〈学術交流協定校での入試説明会〉



〈本学修了生を核とした広報活動〉



〈留学生対象キャリア支援学内HP〉

■ グローバルキャンパス実現に向けた取組

○ グローバルキャンパス・イベントの開催

定期的に行っている「NAIST Tea Time」では、さまざまな文化的背景を持つ本学留学生や教職員と、日本人学生・教職員、そして地域住民が、飲み物を片手につろいだ雰囲気の中で、世界各国のプレゼンターによる自国の紹介などを楽しむことで、異文化理解・相互理解を深めた。



〈グローバルキャンパス・イベントの開催〉

5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【奈良先端科学技術大学院大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 海外教育連携拠点 インドネシアオフィス

インドネシアオフィスに常駐スタッフ配置のためのNAISTインドネシア同窓会との委託契約を成立させたことにより、本学修了生をインドネシアオフィスの常駐スタッフとして配置し、現地での就職・留学フェア等において現地の言語で広報活動を行うことが可能となった。

○ 海外教育連携拠点 タイオフィス

タイ大学連絡会(JUNThai)に参加し、タイにおける教育研究機関とのネットワークを構築するとともにスーパーグローバル大学創成支援事業の一環として、9月にバンコクにおいてタイオフィス開設記念シンポジウムを開催し、同国における本学の教育研究活動のプレゼンスを高めた。また、本学修了生との連携を通し、トップクラス大学(チェンマイ大学)と新たに学術交流協定を締結した。

○ 多様な教職員及び外国人留学生の受入れ

国際公募による教員の採用や、海外で通算1年以上の教育研究経験を重視した選考、教員の長期海外派遣事業等の継続的な取組により、多様な教職員を確保している。また、日本留学フェアへの参加や、学術交流協定校での学生募集活動を積極的に行い、外国人留学生が特定の国に偏ることなく、東南アジアを中心としつつも、世界33カ国・地域(平成30年3月現在)からの受入れ、質の高い多様性を確保している。

ガバナンス改革関連

○ 海外FD研修の実施

授業見学と担当教員やTAとの授業後面談を通して、PBL、アクティブ・ラーニング、TAの役割等について学び、学生の主体的な学修を促進する教育プログラムの構築につなげた。また、学内報告会や各研究科でのFD研修会を通して、本学構成員へのフィードバックを行うなどして、教員の教育能力向上に取り組んだ。

○ 事務職員の高度化

英語研修や海外SD研修を継続的に実施することにより、本学が掲げる外国語力基準(TOEIC 750点以上)を満たす専任職員数の実績(平成30年3月時点で37名)は構想調書で掲げた当初の目標を着実に達成しており、平成29年度には外国語力基準を満たす専任職員を事務局の全ての課・室に配置することを実現した。このことは平成29年度スーパーグローバル創成事業の中間評価結果においても高く評価されている。また、研修内容を改善した英語研修を継続的に実施することにより、職員TOEICスコアの全体的な底上げも行われている。

教育改革関連

○ 「1研究科」への移行

これまでの3研究科の教育カリキュラムを基盤としつつ、社会的要請に応える先端3分野に関わる融合領域教育カリキュラムを柔軟かつタイムリーに構築できる体制とするため、3研究科3専攻を統合し、1研究科1専攻へ平成30年度から改組することを決定した。1研究科の教育では、先端科学技術の専門性と幅広い視野を持つグローバル人材を育成するため、世界レベルの研究力を持つ教員が、これまでの研究科の枠を越えて集まり、社会が求める専門性と広い視野を身につける教育、異分野連携・融合教育などを展開する7つの教育プログラムを設けることとした。



〈インドネシア人常駐スタッフによる広報活動〉



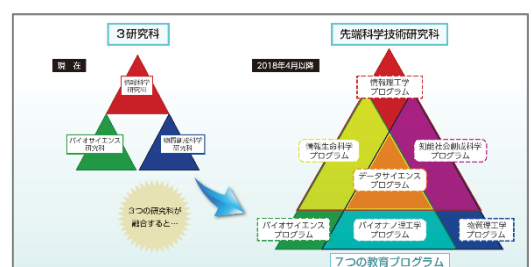
〈タイオフィス開設記念シンポジウム〉



〈日本留学フェアでの活動〉



〈海外SD研修報告会〉



〈1研究科への移行〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 留学生・外国人研究者支援体制の強化

留学生・外国人研究者支援センター(CISS)の体制を強化し、学内広報を行った結果、多くの相談に対応できたことにつながった(支援件数:762件)。また、構想調書で計画していた外国人教員採用を後押しするためのPartner Opportunities Program (POP)や、NAIST International Student Ambassador (留学生生活相談)を制度化し、情報提供を開始するなど新たな外国人研究者や留学生の生活支援の拡充を行うことができた。



〈留学生・外国人研究者支援センター(CISS)〉

○ 地域とも連携した異文化混在グローバルキャンパスの拡充

構成員間及び地域住民との国際交流を促進するためのグローバルキャンパスイベントとして、「NAIST Tea Time」を継続して実施しており、平成29年度は7月6日(第13回)と、12月15日(第14回)を開催した。そのほか、平成30年1月に実施した国際交流懇話会(留学生懇話会)では、参加者数は過去最高の321名を記録するなど、留学生支援団体・自治体関係者と本学の留学生、外国人研究者、教職員との交流の促進に大きな役割を果たしている。



〈グローバルキャンパス・イベント〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ ダブル・ディグリー・プログラムの取組の強化

平成30年2月に本学のダブルディグリープログラムガイドラインを策定し、教育の質の保証に努めるとともに、平成29年度は本学で初となるダブルディグリープログラム修了学生に博士の学位授与を行った。特に本学から派遣したポール・サバティエ大学との国際共同指導によるダブルディグリープログラム修了生が2018年3月の学位記授与式において2名とともに最優秀学生賞に選ばれるなど、取組の成果が上がっている。

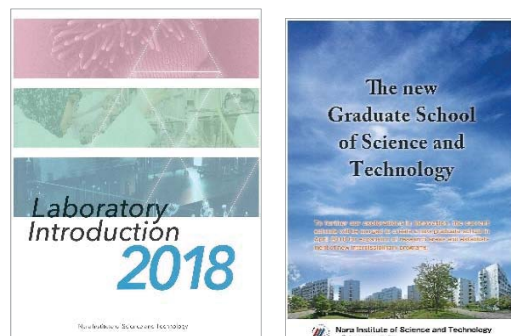
また、ダブルディグリープログラムの取組をさらに強化するため、ドイツ・ウルム大学とのダブルディグリープログラムに関する協定書を締結(2017年7月)するとともに、平成30年3月のフランス・パリサクレール大学訪問では、同校とのダブルディグリープログラム協定の新たな締結につなげることができた。



〈学位記授与式(2018年3月)〉

○ 1研究科に向けた広報活動

2018年版英語版大学ガイドブック及び研究室紹介については、平成30年度からの1研究科体制を踏まえ、所要の改訂を行った。また、1研究科体制が特に留学生にとっていかに魅力的なものであるかをアピールするために12月には1研究科移行の日本語版に対応する英語版リーフレットを作成し、海外の各機関や海外オフィスで配布し、情報提供を行った。加えて、英語版ウェブサイトについても平成30年4月からの1研究科を踏まえて改修を進めるとともに、11月には英語版ウェブサイトに1研究科の説明に特化した専用ページを設けて、留学希望者や留学生が必要とする情報へ容易にアクセスできるようにした。



〈英語版研究室紹介〉

〈1研究科移行リーフレット〉

○ 留学生のキャリアパス支援

日本企業から高い日本語能力を求められることがあるため、国内外の日本企業への就職を希望するものについては、日本語能力試験N1~N2取得に受けた対策講座を実施した。留学生と企業の橋渡しをするジョブフェアを学内で開催。ベンチャーの立ち上げに関心のある学生向けに、外部機関と連携してビジネススタートアップセミナーを開催するなど、幅広いキャリア支援を行った。



〈1研究科特設ウェブサイト〉

6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【奈良先端科学技術大学院大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 海外教育連携拠点の活動ーNAIST海外オフィスー

本学はアジア地域における教育研究連携の拠点としてインドネシアオフィスとタイオフィスを開設しており、これらオフィスを拠点として様々な交流活動を展開している。

インドネシアオフィスに関しては2018年4月に同オフィス常駐スタッフがボゴール農科大学主催の就職・留学フェアにブース出展し、新たな本学入学者の発掘に取り組んだ。タイオフィスに関しては2018年11月に同オフィスを拠点とした学生シンポジウムをタイで開催し、チェラロンコン大学、マヒドン大学及びカセサート大学との学術交流の推進及び優秀な留学生の獲得に貢献している。

また、インドネシアオフィス及びガジャマダ大学とのコラボレーションオフィスに関する活動状況の評価を実施し、検証の結果、これまでの活動内容から、同オフィスの設置を継続することが適切であることが大学執行部において確認された。

○ 学生海外派遣支援体制の強化

グローバル人材育成として博士後期課程学生を対象に、語学研修、ラボステイプログラムを実施した。平成30年度のプログラムでは、学生の海外での危機管理の認識を高めるため、研究科及び英語教育担当教員らと教育連携部門UEAが連携し、海外安全渡航、危機管理に特化したオリエンテーションを実施した。



〈インドネシアオフィス検証〉



〈タイ学生シンポジウム〉

ガバナンス改革関連

○ UEAの新人事制度の実施

平成29年度に確定した、新たなUEAの人事制度(採用5年目に任期の定めのない雇用への転換がある高度専門職系職員)を平成30年4月から施行し、同年7月及び平成31年2月に教育連携部門において、新制度に基づくUEA(国際展開担当、留学生・外国人研究者支援担当)2名をそれぞれ採用した。このことにより、長期的視点で国際展開、留学生・外国人研究者支援を行う体制を構築した。

○ 職員の語学力の向上とグローバル対応力の強化

海外SD研修を実施し、参加者は、カリフォルニア大学デービス校にて大学職員へのインタビュー、語学プログラムへの参加を行った。海外SD研修については、報告会の開催とこれまでの成果報告書を学内ウェブサイト上で公表することにより本学職員へのフィードバックを行うことで事務職員の国際性の向上と高度化に貢献している。



〈海外SD研修〉

教育改革関連

○ 教員向けFD研修の実施

海外FD研修を実施し、理工系分野の授業見学、教員・ティーチング・アシスタント(TA)との意見交換等を通じ、教授法や学生の学習意欲向上のための実践的方法論等の学習ができ、本学構成員に授業改善に向けた意識啓発を行うことができた。研修終了後に報告会を開催することにより研修内容をフィードバックさせることができた。教育連携部門のUEAが同行し研修内容の確認及び課題の洗い出しを行うなど、研修の質の保証に努めた。

○ 1研究科体制始動に伴うカリキュラム、教育支援システムの充実

教育推進部門において、1研究科体制の教育プログラムに対応した教育支援システム(シラバス、履修登録、教育カルテ等)の整備、学生授業評価アンケートの実施、授業改善に向けた意識啓発など教育支援の充実を図った。



〈海外FD研修の様子〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 全学キャリアパス支援

日本人学生向けキャリア支援において、就職ガイダンスの内容の吟味、実施時期や講師の見直しに取り組むなど、従来のキャリア支援を改善し、さらなる充実を図った。特に、日本人学生向け企業インターンシップ支援として国内外のインターンシップ先の開拓に取り組み、次年度に初の米国企業インターンシップへの学生参加につなげるなど、海外インターンシップを促進した。留学生向けキャリア支援として、英語でのキャリア相談、就職ガイダンス、Networking event（留学生と留学生採用を考える企業との交流会）、日系企業就職に向けた日本語能力試験対策講座などを実施した。



〈 Networking event 〉

○ 留学生・外国人研究者支援の取組強化

平成28年度に発足したCISS（Center for International Students and Scholars）において、留学生と外国人教員・研究者の生活環境の改善に向けた支援の実施、体制の強化を行った。新たな取り組みとして、留学生交流係と連携し、「留学生のためのクレジットカード申込み説明会」を開催し、日本での生活の利便性向上に貢献した。留学生の生活相談に対する体制を強化することを目的とし、学内関係部署と連携し留学生ピアサポートシステム「NAIST留学生アンバサダープログラム」を新たに創設、10名の留学生をアンバサダーに任命し、プログラムの運用を開始した。



〈 NAIST留学生アンバサダー任命式 〉



〈 アンバサダー研修の様子 〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組(タイプBのみ)

○ 学生向け語学教育の強化

新たな学生の英語力強化プログラムとして「プロフェッショナルコミュニケーション特別強化学生制度」（英語力強化）を設け、特別強化学生がTOEICスコア650点以上の取得を目指す体制を構築し、特別強化学生の英語力強化を図った。留学生を対象とする日本語教育科目の開講や正規の授業科目以外にも地域ボランティアによる日本語補講を実施し、日本での生活・就職等に必要となるコミュニケーション能力の獲得や、親日派・知日派人材の育成に貢献した。また、地域ボランティア団体による日本語教室（週2回）を開催し、平成30年4月～平成31年3月に入学した留学生の80%が受講し、本学の留学生の日本語能力向上に貢献した。

○ 大学情報の発信と手続きの可視化

英語版大学ガイドブック及び研究科紹介の作成と協定校や国内外の関係機関への配布、電子版を本学ウェブサイト上で公表することにより本学の教育研究内容や国際交流について広く情報発信を行った。英語版ウェブサイト上で協定校からの交流学生の受入れ手順等を公表し、手続きの可視化を進めた。また、教育連携部門(DGE)のウェブサイトをリニューアルすることにより特に海外留学情報やダブルディグリー・プログラム協定の手続き等に関する情報を新たに掲載するなど本学学生・教職員に対する利便性を高めることができた。



〈リニューアルされたDGEホームページ〉

○ 海外教育研究機関との協定拡充及び学生募集活動

学術交流協定校の拡充（平成31年4月現在：29カ国・地域105件）に取り組み、留学生の大幅な増加によりキャンパスのグローバル化の実現につながった。（留学生数 平成26年4月現在：161名→平成31年4月現在：267名）日本留学フェアへの参加に加え、学術交流協定校で学生募集活動を展開し、優秀な外国人留学生の獲得につながった。

○ ダブルディグリープログラムの取組の強化と実質化

ダブルディグリー・プログラムについては、2件新規締結（パリサクレ大学、ソルボンヌ大学）することにより協定先の拡充を図るとともに、協定更新時期を迎えたプログラムについては、これまでの交流実績を踏まえて更新1件（ポール・サバチエ大学）、終結1件（オウル大学）を行うなど更新プログラムを精査することにより本学ダブルディグリー・プログラムの実質化に取り組んだ。



〈 留学フェアでの活動 〉

7. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【奈良先端科学技術大学院大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 海外教育連携拠点を活用した留学生の戦略的な獲得

アジア地域における教育研究連携の拠点としてインドネシア及びタイに開設した海外オフィスを拠点として様々な交流活動を展開している。

インドネシアオフィスに関しては、非営利法人として認定されている本学インドネシア同窓会(INAA)との連携協力により、平成31年4月にボゴール農科大学主催の就職・留学フェアにブース出展し、約200人の来訪者にインターンシップ制度や奨学金制度等について説明を行い、新たな本学入学者の発掘に取り組んだ。

タイオフィスに関しては、令和元年7-8月にタイオフィス長がオフィスを拠点として本学学術交流協定校(カセサート大学、チェンマイ大学)において学生募集説明会やインターンシップの調整等の学生募集活動を実施し、インターン生の受入増加と優秀な正規留学生の獲得につながった。また、JASSO日本留学フェア(インドネシア、タイ、ベトナム、中国)のほか、マレーシアでのPostgraduate Education Fairへの初の参加や学術交流協定校訪問を通して、優秀な留学生の確保とインターン生の受入増加に取り組んだ。その結果、令和2年4月現在の留学生数は282名(世界33国・地域)となった。



〈 JASSO日本留学フェア:タイ 〉

ガバナンス改革関連

○ UEAの配置による国際化支援体制の強化

平成29年度に確定した新たなUEAの人事制度(採用5年目に任期の定めのない雇用への転換がある高度専門職系職員)に基づき、令和2年1月に教育連携部門においてUEA(国際戦略担当)を新たに1名採用し、平成30年度に採用した2名のUEA(国際交流担当、留学生・外国人研究者支援担当)とともに、長期的視点で国際展開、留学生・外国人研究者支援を行う国際化支援体制の強化を図った。

教育改革関連

○ 教員向け海外・国内FD研修等の実施

令和元年9月にカリフォルニア大学デービス校から講師を招聘し、国際FDセミナー「理系授業における学生中心型教授法(SCT)と課題解決型学習(PBL)の導入」を開催した。また、海外FD研修参加教員を対象とした同講師による英語講義の外部評価を実施し、研修参加教員の英語講義に関する知見と能力を向上させることができた。11月には海外FD研修として、カリフォルニア大学デービス校をはじめとする北米の大学へ教員4人を派遣し、教授法や学生の学修意欲向上に関する実践的方法論、ラボステイによる研究指導法や研究室運営方法論を調査した。帰国後は全教職員・学生を対象に海外FD研修報告会を実施し、成果を共有した。



〈 海外FD研修 〉

令和2年3月に2日間にわたるFD研修兼グローバルリーダー養成模擬講義を開催した(教育推進機構企画)。北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)より講師を迎え、アクティブラーニングの構築とその効果について紹介があった。続いて、パネルディスカッションでは、本学のPBLの授業の紹介と今後のアクティブラーニングやPBLの方向性や可能性について意見交換が行われた。2日目には、JAISTで英語により行われている「グローバル・リーダーシップ養成特別演習」の模擬授業を本学学生を対象に実施した。本学の日本人学生、留学生にとって、ディスカッションを中心とした学生参加型授業は新鮮であり、本学での導入を期待する声が上がった。



〈 白熱教室! 〉
「グローバルリーダーシップ模擬授業」

○ 1研究科体制での英語教育の強化

学生の英語力強化の目安となるTOEIC試験を複数回実施し、語学レベルの測定・把握に努めた。英語力強化に向けた施策として「プロフェッショナルコミュニケーション特別強化学生制度」を実施した。本制度のTOEIC対策講座により、特別強化学生113名中69名が目標スコアを突破した。新たに、全学規模の海外英語研修プログラムを企画し、ハワイ大学マノワ校において本学の英語強化プログラムにカスタマイズされた4週間の研修を実施した。



〈 ハワイ英語研修 〉

